

社団法人 東洋音楽学会 **会報** 第61号

発行(社)東洋音楽学会〔事務所〕〒110-0001 東京都台東区谷中5-9-25 第2八光ハウス201号

TEL.03-3823-5173 FAX.03-3823-5174 E-mail LEN03210@nifty.ne.jp

ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/tog/>

目次

第55回大会のご案内	1	会費納入のお願い	3
第55回大会の研究発表募集	1	会員異動	3
第21回回田尚雄賞受賞者発表	2	図書・資料等の受贈	6
第69回通常理事会議決事項のお知らせ	2	新刊書籍	6
第37回ICTM世界大会(中国)報告	2	新発売視聴覚資料	7
日本学術会議芸研連シンポジウムのお知らせ	3	編集後記	7

第55回大会のご案内

社団法人東洋音楽学会は、平成16年度の大会を下記の通り開催いたします。どうぞふるってご参加ください。

1. 日時：平成16年10月23日(土)・24日(日)
2. 会場：お茶の水女子大学(〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1) [交通：地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅より約7分]
3. 日程：(時間は予定ですので多少前後することがあります)

第1日：10月23日(土)

- ・通常理事会：10:00 - 13:00
- ・公開講演会：14:00 - 16:00「アジア音楽の伝統と現代」
講演：澤田篤子、近藤譲(非会員)
ピアノ演奏：小坂圭太(非会員)

・第21回回田尚雄賞授賞式：16:15 - 16:30

・懇親会：17:00 - 19:00

第2日：10月24日(日)

- ・研究発表および通常総会：9:30 - 16:00
- ・臨時理事会：16:30 - 18:30

4. 会費 <値下げしました！>

- ・大会参加費2,000円(学生1,000円)
- ・懇親会費4,000円(学生3,000円)

第55回大会の研究発表募集

第55回大会の研究発表会における口頭発表を下記の要領で募集いたします。独自にセッションなどを組んでいただくのも歓迎します。

- 1) 発表時間：20分(厳守)、質疑応答：10分
- 2) 申込方法：題目、要旨(1200字程度)、氏名、連絡先(住所、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス等)、使用希望機材等必要事項を明記の上、書面で下記大会事務局までお申し込みください。
- 3) 申込締切：2004年6月30日(水)
- 4) 申込宛先：

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

お茶の水女子大学文教育学部 永原研究室気付
東洋音楽学会第55回大会事務局

TEL 03-5978-5275 / 5279(音楽助手室)

FAX 03-5978-5276

E-mail : nagahara@li.ocha.ac.jp

大会実行委員会：井上登喜子、遠藤徹、高桑いづみ、
塚原康子、永原恵三(委員長)、福田千絵

第 21 回田邊尚雄賞受賞者発表

第 21 回田邊尚雄賞は、以下のように決定いたしました。

[受賞者] 高桑いづみ

[受賞対象] 『能の囃子と演出』 音楽之友社 2003 年 2 月
刊行

[選考経過] 今回推薦された業績は 4 件で、3 月 9 日に開かれた選考委員会で慎重に審議されました。授賞式は本学会第 55 回大会で行われる予定です。理事会で承認された受賞理由は以下の通りです。

[受賞理由] 本書は、能の囃子と楽器と音楽についての歴史的研究で、世阿弥の時代から現代まで、能はどのように変容したかを、鼓胴、能管、謡と舞の演出などから追求した、先駆的な業績と認められる。

第 69 回通常理事会議決事項

2004 年 4 月 4 日 (日) に東京藝術大学音楽学部で開催された、第 69 回通常理事会の議決事項をお知らせいたします。

新入会員承認の件

(1) 前回理事会 (2003 年 10 月 25 日) 以降 2004 年 4 月 4 日までに申込のあった正会員 16 名 (再入会 1 名を含む) 学生会員 4 名の入会が正式に承認されました。

(2) 平成 16 年度研究発表大会および公開講演会の件

本号の関連記事をご覧ください。

(3) 第 21 回田邊尚雄賞受賞者決定の件

本号の関連記事をご覧ください。

(4) 第 22 回田邊尚雄賞選考委員選任の件

蒲生美津子、竹内道敬 (以上留任) 薦田治子、櫻井哲男、徳丸吉彦 (以上新任) の 5 氏が選任されました。

(5) 参事委嘱および退任の件

参事 1 名の委嘱および、現参事 1 名の任期途中での退任が承認されました。

(6) 田邊尚雄賞将来構想の件

今後の同賞の運営について、第 21 回田邊尚雄賞選考委員から出された意見を踏まえて、理事会内部で検討することが確認されました。

(7) 次期理事定数の件

次期の理事定数を今期と同じく 15 名とすることが承認されました。

第 37 回 ICTM 世界大会 (中国) 報告

昨年春の新型肺炎 SARS の流行によって 7 月の開催が延期された第 37 回 ICTM 世界大会は、今年 (2004 年) 1 月 4 日から 11 日まで当初の開催予定地であった中国福建省の福州と泉州で行われた。今回の大会は、突然の開催延期や開催 4 ヶ月前の 9 月に新しい日程が決まるなど、さまざまな面で大きな困難に直面していたにもかかわらず、総じて大変よく組織され、参加者も 400 名 (約半数が中国人) を超える盛大な大会となった。これまでの ICTM 大会と比べて、本大会は主に 3 つの点で際だっていたように思われる。

ひとつは、研究発表が英語と中国語による完全な 2 言語発表方式で行われたことだ。これは、大会運営の面で途方もない負担を強いるものだが、その困難な課題を中国側のホストはみごとになし遂げていた。具体的に言えば、総数 270 件を超える研究発表とパネルのうち、100 件近い中国語による発表論文はその原文と翻訳された英語版が 830 頁に及ぶ厚い論文集の形で登録時に各参加者に配布された。また英語による論文は、すべてではないが多くは事前に中国語に翻訳され、各発表会場で論文の中国語版が中国人研究者に配布された。また発表後の質疑応答では、福建師範大学の大学院生が英語による質疑応答を中国語に、また中国語による質疑応答を英語に通訳するという困難な仕事をやってのけた。ICTM 世界大会でこれほど大規模な 2 言語発表方式を採用した例はなく、質疑応答の通訳に時間がかかったり、通訳内容にやや正確さが欠けるなどの問題はあったものの、総じて大会組織委員会は前例のない偉業をなし遂げたといえるだろう。

二つ目は、参加者に対する異例なほどの歓待ぶりが挙げられる。毎晩のように豪華な晩餐会が催され、夕食後は越劇、福州民俗音楽、泉州南音など毎晩充実した公演プログラムで参加者をもてなした。特筆すべきは、4 日目の夜のプログラムとして沖縄の御座楽と琉球舞踊の公演があったことである。これはもちろん琉球と福建省との歴史的なつながりを念頭においた企画で、本学会員である比嘉悦子氏を中心としたグループが沖縄から来て演奏した。また翌日の 1 月 8 日は、参加者全員が大型バスで福州から泉州に移動し、この間莆田などの名勝地の観光を楽しんだ。これらすべての費用がホスト側の負担であり、明らかに福建省と泉州市からの莫大な公的資金援助があったにちがいない。前回のリオデジャネイロ大会、前々回の広島大会と比べても、この豪華な歓待ぶりは異例といえる。個人的には、ICTM 大会のような学術研究集会はもっと質素なもので良いのではないかという印象をもった。

三つ目は、相当な数の音楽研究者が中国国内で活動していることを海外から来た参加者が、今回はじめて目の当たりにしたことだ。また欧米で教育研究活動をしている中国系の学者も多く、彼らがディアスポラの地から中国にやってきて流暢な英語で欧米の研究者と意見交換する様は、やはり自国の音楽を海外で勉強するという伝統をほとんど持たない日本の状況とは根本的に異なるものであった。彼らの英語による研究発表には、欧米流のアカデミックな基礎を積んだそれ相応の水準の高さを感じた。

総じて、今回の中国における ICTM 世界大会は、参加国数と参加者数の多さ、学術的テーマの幅の広さ、研究と「息抜き」のほど良いバランス、2 言語発表方式による新しい試みなどさまざまな面で組織委員会の大会成功に向けた大きな努力が功を奏し、海外からの参加者に多くの点で中国のイメージを一新させる結果となった。(塚田健一)

尼ヶ崎彬 (学習院女子大学・教授 舞踊学会)

「二つの制度 芸術と社会」

総括 毛利三彌 (芸術学研究連絡委員会幹事、
成城大学文学部・教授)

閉会の辞 丹羽勝海 (日本大学芸術学部大学院・教授
日本声楽発声学会)

主催 芸術学研究連絡委員会

日時 平成 16 年 6 月 19 日 (土) 13 時~17 時

会場 日本大学芸術学部 (江古田校舎) 図書館 6 階
視聴覚教室 A

〔交通〕池袋より、西武池袋線各駅停車 江古田駅 (北口より徒歩 3 分)

都営大江戸線 新江古田駅 (徒歩 12 分)

日本学会議芸研連

シンポジウムのお知らせ

芸研連 (芸術学研究連絡委員会) では、今年度のシンポジウムを下記の通り開催いたします。みなさまのご参加をお待ちしています。

日本学会議・第 19 期・芸術学研究連絡委員会

シンポジウム

「芸術の“無”責任 (Irresponsibility of Art)」

一般来聴歓迎

開会挨拶 佐々木健一 (芸術学研究連絡委員会委員長、
日本大学文理学部・教授)

趣旨説明 岩城見一 (芸術学研究連絡委員会幹事、
京都大学文学研究科・教授)

司会 西村清和 (東京大学大学院人文社会系・教授)

パネリスト・発表題目 (仮題)

小田部胤久 (東京大学大学院人文社会系・助教授 美学会)

「芸術的理念としての さすらい」

大西廣 (武蔵大学教授 美術史学会)

「出版文化における シャドウ・ワーク の運命 「肉筆」

優位のヒエラルキー のなかでの版下画家北斎の無責任な
奔放さ」

日比野啓 (成蹊大学文学部・助教授 日本演劇学会)

「芸術における公共性とは何か 市民劇/民衆劇 (civic

theatre) を例に」

会費納入のお願い

2003 年度 (2003 年 9 月 1 日~2004 年 8 月 31 日) までの学会費を未納の方に、請求書 (色付き用紙) と振替用紙を同封いたしました。請求書で未納金額をお確かめのうえ、早速払い込みください。会費の滞納がある場合、その年度の機関誌はお送りできません。

なお、本紙と行き違いに納入がありました場合は、どうぞご容赦ください。

会員異動

(2003 年 12 月 - 2004 年 4 月、到着順)

- 『楽道』12,1,2,3,4 月号 正派邦楽会
『月刊みんぱく』12,1,2,3 月号 国立民族学博物館
『白い国の詩』12,1,2,3,4 月号 東北電力(株)
『中央音楽学院学報』2003 年第 4 期 中央音楽学院
(岸辺成雄博士卒寿記念事業委員会より寄贈)
『東方學會報』No.85 (財)東方学会
『国立民族学博物館国内資料調査委員 調査報告集 23』
(CD-ROM) 国立民族学博物館情報管理施設
『Bulletin of Vietnamese Institute for Musicology』
No.10 Vietnamese Institute for Musicology
『民俗芸能研究』第 36 号 民俗芸能学会
『浜松市楽器博物館だより』No.34
『平成 14 年度浜松市楽器博物館年報』
浜松市楽器博物館
『Cultures sonores d Afrique』III
広島市立大学国際学部
『ぎふ民俗音楽』第 60 号 岐阜県民俗音楽学会
『研究紀要』XXIV エリザベト音楽大学
『日本音楽学会関東支部通信』第 61 号
日本音楽学会関東支部
『音楽学』第 49 巻 2 号 日本音楽学会
『アジアセンターニュース』No.26
国際交流基金アジアセンター
『研究紀要』第 10 号
『ボン カンピソシ』9 (地名)
北海道立アイヌ民族文化研究センター
『演劇映像』第 45 号 早稲田大学演劇映像学会
『お茶の水音楽論集』第 5,6 号 お茶の水音楽研究会
『沖縄音楽の構造 歌詞のリズムと楽式の理論』
金城厚著 第一書房

住所・所属等に変更ありましたら事務局までご連絡
ください。(機関誌別冊会員名簿とじ込みの変更届用
はがき、またはファクス、E-mail 等でも結構です)

改姓・改名のお届けには、ご希望の表記法をお書き添
えください。(複数表記される場合、どちらを主な表
記にするのか等)

事務局に登録はされても、公表を希望されない情報等
がある場合には、その旨ご明記ください。

図書・資料等の受贈

新刊書籍

- 『アラブの風と音楽』若林忠宏著、ヤマハミュージックメディア、
1,890 円
『案外、知らずに歌ってた童謡の謎 2』合田道人著、祥伝社、
600 円
『埋もれた楽器 音楽考古学の現場から』笠原潔著、春秋社、
2,625 円
『沖縄音楽の構造 歌詞のリズムと楽式の理論』金城厚著、第一
書房、5,500 円

- 『音楽学を学ぶ人のために』根岸一美、三浦信一郎編、世界思想社、2,310 円
- 『音楽教育学大綱』ジークリト・アーベル・シュトルート、山本文茂、音楽之友社出版、33,000 円
- 『音楽と記憶 認知心理学と情報理論からのアプローチ』ボブ・スナイダー著、音楽之友社、4,410 円
- 『古典落語 続』興津要著、講談社、1,313 円
- 『この楽譜なら音楽はやさしい！ 全く新しい記譜法の紹介』夏山澄夫著、創栄出版、1,260 円
- 『「子守唄」の謎 懐かしい調べに秘められた意味』西館好子著、祥伝社、1,470 円
- 『料酒酔音 世界の音楽と酒への旅』星川京児著、音楽之友社、1,890 円
- 『志ん朝の落語 5』古今亭志ん朝著、筑摩書房、998 円
- 『志ん朝の落語 6』古今亭志ん朝著、筑摩書房、998 円
- 『新内の情景』富士松松栄太夫著、ゴエスインフォームド、1,890 円
- 『新編音楽小辞典』金沢正剛編、音楽之友社、2,400 円
- 『捨ての美学 能の花と心』川上忠志著、文芸社、1,575 円
- 『台湾の南管—南管音楽における演劇性と音楽集団』楊桂香著、白帝社、1,680 円
- 『中国学芸叢書 中国音楽と芸能—非文字文化の探究』吉川良和著、創文社、3,675 円
- 『日本の響きをつくる 小山清茂の仕事』小山清茂著、音楽之友社、2,310 円
- 『日本音楽教育事典』日本音楽教育学会編、音楽之友社、39,900 円
- 『柳田国男』柳田国男著、新学社、1,370 円
- 『ユーラシア時空の旅 仮面からアジアのかたちが見えた』小笠原弘三著、文芸社、1,575 円
- 11,550 円
- 『林家正蔵十八番集』VZCG-8259~65 (CD7 枚組)、ビクター、11,550 円
- 『笑福亭松鶴“上方はなし”』VZCG-8266~79 (CD7 枚組)、ビクター、23,100 円
- 『三味線 芳村伊十七の世界—勸進帳—』COCJ-32530、コロムビア、2,500 円
- 『新内三味線 富士松菊三郎の世界』COCJ-32531、コロムビア、2,500 円
- 『義太夫三味線 鶴澤清治の世界』COCJ-32532、コロムビア、2,500 円
- 『たい平よくできました～林家たい平落語集～』COCJ-32685~6、コロムビア、3,500 円
- 『流響～長須与佳 尺八／琵琶の世界～』COCJ-32533、コロムビア、2,500 円
- 『四国民謡のすべて』KICH-2408、キングレコード、2,000 円
- 『落語笑事典 1～15』KICH-3231～3245、キングレコード、各 ¥2,000 円
- 『桂三枝大集合 第 41 集～第 62 集』KICH-5541～62、キングレコード、各 2,100 円
- ビデオ
- 『桂三枝大集合 第 21 集～第 31 集』KIVE-5421～31、キングレコード、各 4,725 円
- DVD
- 『スーパー狂言「ムソゴロウ」』VZBG-1、ビクター、4,200 円
- 『スーパー狂言「クローン人間ナマシマ」』VZBG-2、ビクター、4,200 円
- 『スーパー狂言「王様と恐竜」』VZBG-3、ビクター、4,200 円

新発売視聴覚資料

- コンパクト・ディスク
- 『都山流尺八外曲集成』VZCG-8280～8285 (CD6 枚組)、ビクター、15,750 円
- 『山田流箏曲六代山勢松韻集』VZCG-8286～8290 (CD5 枚組)、ビクター、¥14,175 円
- 『桂文楽十八番集』VZCG-8238～44 (CD7 枚組)、ビクター、11,550 円
- 『三遊亭圓生十八番集』VZCG-8245～51 (CD7 枚組)、ビクター、11,550 円
- 『柳家小さん十八番集』VZCG-8252～58 (CD7 枚組)、ビクター、

編集後記

会報第 61 号をお届けします。今号もタイトな編集日程にもかかわらず、執筆者各位に快くご協力いただきまして有難うございました。皆様にお願ひですが、毎号、会員の受賞情報が集まりにくい状況です。ご存知の方は会報編集委員会までご連絡いただければ幸いです。

次号は 9 月 10 日発行予定です。

会報編集委員会

理事：尾高暁子、高桑いづみ

委嘱委員：丹羽幸江（東日本支部委員）

参 事 : 金光真理子、斎藤完、高瀬澄子、鳥谷部輝彦、
前島美保、松村智郁子